

自産自消ができる国へ vol.81

『トランプ大統領とアメリカ農業の変化』

文 西辻 一真 text by Kazuma Nishitsuji

年明けから10日間ほど海外の農業や流通を体験してみたくて、アメリカのカリフォルニア州にある農業ベンチャーでインターンをしてきました。主にいわゆる庶務的なことしかできず、仕組みを感じるほどまではできなかったのですが、その中で印象的な出来事がありました。

空港に到着してタクシーでその会社に向かっているとき、タクシーの運転手さんに「なんでここに来たんだ?」と聞かれたので、「農業の現状をみたくて」と答えた時のことでした。その運転手さんはトランプ大統領否定派で「カリフォルニアの農業を支えているのはメキシコ移民だぞ、体の大きい白人がブチトマトをとると思うか?」と言っていたのですが、その時に外の風景をよく見ると確かに思っていたよりも畑の中に人がいて、もともと作業をしていました。そこからオフィスに戻ってネットでカリフォルニアの農業を調べていたら、カリフォルニアの農業生産は全米の約半分を賄っていて、そこで働く人の8割以上がメキシコの移民でした。合法



Profile
82年、福井県生まれ。京都大学農学部卒。広告会社に勤務後、07年9月にマイファームを設立。都市部の耕作放棄地を体験農園として貸し出すビジネスを始める。
株式会社マイファームの取り組みはこちら
公式サイト: <http://myfarm.co.jp/>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/myfarm.koto>
耕作放棄地を再生させる『体験農園マイファーム』: <http://myfarmer.jp/>
耕作放棄地を耕す人を育てる『アグリイノベーション』: <https://agri-innovation.jp/>

か不法かはわかりませんが相当な低賃金で働いている彼らが、アメリカの農業の下支えになっていることは調べたらすぐにわかりました。

う政策にやがて舵を切ると思いますが、その開発と移民の強制送還のタイミングを間違えてしまうとアメリカの農業は衰退してしまいます。

今、トランプ政権になってメキシコとの国境に壁を作るという大統領令が出ていますが、もしそれが実現され不法移民を返すことになれば、アメリカの農業に雇用が新たに生まれ、白人の方が働くことになるのでしょうか。皆さんもすぐ想像がつくと思いますが、それは否で、より効率化が進んだロボットによる収穫、ドローンによる空中散布、IoTシステムによる自動制御、収量の多い遺伝子組み換え種子、これらが一層進んでいきます。トランプ大統領は、おそらくこういった仕組みを作る産業を増やし効率化を進めようとい

日本国内ではアジアのマーケットを狙って進出することがトレンドになっていますが、今こそアメリカのマーケットに食い込んでいって、逆輸入の技術を国内やアジアで広めるようなことがあってもいいと、私は思っています。世界情勢が目まぐるしく動く今日、生まれた隙間や新たな需要を垣間見ることができました。日ごろ国内でマイファームは活動していますが、今回のカリフォルニア州でのインターンを通して、国内外含めて農業の世界も面白くなってきました。